



とわだグリーン・ツーリズム研究会会員
寺下 良次さん（69歳）

自然や農業を通して 首都圏との交流の輪を広げたい

地域の農業振興を目指し、農業体験メニューの提案や市内の伝統文化、観光スポットを積極的に情報発信する寺下さん。平成20年10月には、自発的な活動が認められ、社団法人農山漁村女性・生活活動支援協会、社団法人全国農業改良普及支援協会が主催する「平成20年度農山漁村いきいきシニア活動表彰」の農村地域部門で奨励賞を受賞。そんな寺下さんに主な活動についてお話を伺いました。

60歳を人生の一区切りに28年間経営していたジーンズ販売店を閉店。

人生の後半は、楽しみながら人の役に立ちたいという思いがありました。

以前から農業に関心を持っていて、で、農業研修やグリーン・ツーリズムのインストラクター研修などに参加し、農業に関する知識や技術を学びました。今では農地を200坪ほど借りてとうもろこしやかぼちゃ、ネギなど23種類の野菜を栽培し、自家栽培の喜びを実感しています。

普段は、道の駅とわだでレジガイドとして務めながら農産物の販売や観光客に市内の見どころを紹介しています。最近では、海外から農業体験を目的に訪れるかたにも十和田市の自然や歴史、文化などを紹介して

います。

今後は、春や秋には都市で生活するかたに田舎暮らしを体験していただき、冬は自分が都会での暮らしを体験するような自然や農業を通して首都圏との交流の輪を広げていきたいと思います。

夫夫婦でどんな野菜を植えようか話すのが楽しみと語る寺下さん



夫夫婦でどんな野菜を植えようか話すのが楽しみと語る寺下さん

「十和田市消費者の会」を紹介します

最近、テレビや新聞で食料品の製造年月日や産地偽装の問題、さらに事故米や有害物質の検出などが報道され、消費者の不安が強まっています。

十和田市消費者の会（竹原弘会長）では、消費について正しい知識の普及を図るため、講演会や講座を開催し、市民の消費生活の安全・安心を目指して活動しています。会員は4月1日現在128人で、今年は特に食の安全に関する研修や地産地消の推進に取り組んでいます。

また、5月の消費者月間に合わせて、5月30日を「ごみゼロ」の日と位置付けて環境保全や美化運動に力を入れています。あなたも一緒に活動してみませんか。

平成21年度の主な活動 安全で安心できる食生活の推進

- ▼食の安全に関する研修・研究
- ▼地元の農産物や加工品の消費拡大
- ▼会員および市民への意識啓発
- ▼会報や各種資料による情報提供
- ▼消費者月間の啓発と530運動
- ▼消費生活向上の講演会開催、県消費大学講座（青森市）の受講
- ▼老後のあり方についての研修会の開催
- ▼資源再利用活動の推進
- ▼リサイクル品の活用による作品展示、販売
- ▼リフォーム教室の開設
- ▼新聞紙などの資源回収
- ▼会員相互の意思疎通の推進
- ▼レクリエーションの開催
- ▼地産地消の研修など



会が設立された昭和46年から続けている530運動



問い合わせ先 十和田市消費者の会事務局

（市外郭団体事室内 ☎ 5111 内線 239）